

Benazir Bhutto ベナジル・ブット

Benazir Bhutto Jun 21, 1953
 Time: 4:00AM Zone: 5:00 DST: 0
 karachi, pakistan
 Longitude: 67E03 Latitude: 24N52 CurPer: Sa/Ma/Ra
 Lahiri Ayanamsa: 23:13 365.25 Day Year

As	09:51	Ta
Su	06:05	Ge
Mo	22:05	Vi
Ma	11:20	Ge
Me	00:25	Cn
Ju	16:39	Ta
Ve	20:24	Ar
SaR	27:22	Vi
Ra	10:39	Cp
Ke	10:39	Cn

Vimshottari Dashas	
Mo	Jun-21-1953
Ma	May-29-1954
Ra	May-29-1961
Ju	May-30-1979
Sa	May-30-1995
Me	May-29-2014
Ke	May-30-2031
Ve	May-29-2038
Su	May-29-2058

	Ve 20:24	As 9:51 Ju 16:39	Su 6:05 Ma 11:20
			Me 0:25 Ke 10:39
Ra 10:39			
			Mo 22:05 SaR 27:22

As	Ra	Ju	
			Mo Me
Ma			
	Su	Ve Ke	SaR

8年ぶりに帰国し、政権への復帰を目指していたパキスタンのブット元首相が27日、イスラム原理主義者の自爆テロで、暗殺された。産経新聞の記事を以下に引用する。

ブット元首相暗殺 懸念現実 パキスタン情勢重大局面
 12月28日8時1分配信 産経新聞

【バンコク＝菅沢崇】パキスタンの首都イスラマバード近郊のラウルピンディで27日、支持者らの集会に参加したブット元首相（54）の近くで自爆テロとみられる爆発や発砲があり、フランス通信（AFP）は内務省当局者の話として、元首相が死亡したと伝えた。治安当局が厳戒態勢をしくなか、元首相の出身地、南部シンド州で放火などの暴動が起きたとの情報もある。民主化を求めてきた元首相が暗殺されたことで、来月8日実施予定の総選挙を含め、パキスタン情勢が混迷の度を深めるのは確実だ。ブット元首相はこの日、ラウルピンディの集会場場で支持者らを前に演説を行っており、爆発は演説の終了前後に起きた。警察当局によると、自爆テロ犯は爆弾を爆発させる前に元首相に対して発砲したとみられ、元首相は首に被弾していた。元首相は直後に病院に搬送されたが死亡した。

爆発により、元首相のほか集会の参加者や警察官ら約20人が死亡、多数が負傷した。現場周辺にはばらばらになった被害者らの体の一部が散乱、爆発の威力の大きさをうかがわせた。ブット元首相暗殺の報を受け、米英や隣国インドなどが一様にテロを非難、国連安保理は緊急会合を開く見通しだ。現地からの報道では、パキスタンのムシャラフ大統領はテロを強く非難するとともに、関係閣僚と緊急会合を開き、今後の対応を協議した。

パキスタン人民党（PPP）を率いるブット元首相は総選挙への出馬を目指し、10月18日に8年以上にわたった事実上の亡命生活を終えて帰国した。米国の仲介でムシャラフ大統領との連携を模索する一方、11月下旬に辞任するまで陸軍参謀長を兼務してきた大統領の強権姿勢を批判、民主化を求めていた。

7月に首都イスラマバードでモスク籠城（ろうじょう）事件が起きた際、元首相は立てこもったイスラム過激派への武力行使を支持し、過激派とも敵対関係にあった。帰国直後には元首相のパレードの車列を狙ったとみられる自爆テロで約140人が死亡、500人以上が負傷しており、常に襲撃される危険にさらされていた。

ラウルピンディでは27日、シャリフ元首相が率いる別の野党集会でも発砲が起き、4人が殺害された。

ブット元首相はムシャラフ大統領と連携して、パキスタン内の民主化や、国内のイスラム過激派の取り締まり強化をすることなどを訴えていた。

アフガニスタンでの米国の“テロとの戦い”に協力してきたムシャラフ大統領、そして、ムシャラフ政権の親米路線を支持したブット氏に対するイスラム過激派の反発が強固なようである。

政治的な話はともかくとして、彼女が何故、今回、暗殺されるに至ったのかを検証してみることにする。

彼女の出生データを米国版 wikipedia で確認すると、1953 / 6 / 21 時間不明 Karachi, Pakistan (67E03 24N52)であることが分かる。

出生時間が分からないため、12:00 で作成すると、現在、彼女はマハダシャー土星期である。

これは出生時間が変わっても同じである。

このように出生時間が分からないでも、現在、マハダシャーが何であるかを検討することは可能である。そして、アンタルダシャーがどこかを検討する前に、今回の暗殺のような場合、まず、火星や土星、そして、6室、8室、そして、マラカの2室、7室などが絡んでいることが予想できるのである。

特に経歴を見た場合に、彼女の父親は軍事クーデターを起こした政権によって処刑されており、その9室の象意が非常に傷ついている印象である。そこで、8室（9室を損失）の象意が強いのではないかと見当がつくのである。そして、暗殺やスキャンダル、政治的失脚などは8室がその象意である。彼女は過去に汚職によって、国外逃亡を図っているため、その辺りでも8室の象意は繰り返し表れてきているのである。

そこで、ダシャーを確認すると、直近に土星/火星期があるので、おそらく、この土星/火星期が彼女が暗殺された時期ではないかと見当がつくのである。

土星と火星はそれぞれ、6室と8室のカラカでもあり、相互にアスペクトしあっていて、激しく傷つけあっており、それが月にも絡んでいることから、ぱっと一目見た感じでもこの土星と火星が暗殺に絡んでいることが想像できるのである。

そして、チャンドララグナで、月とマハダシャーロードの土星から見て、火星は8室の支配星である。その8室支配の火星と6室支配の土星が相互アスペクトして、月と太陽とダシャーロードから見た1室に絡んでいる。太陽は肉体のカラカである。太陽からみて火星は6、11室を支配して凶悪化しており、8室支配の土星と絡んで、ここでも6室と8室の絡みが見られるのである。

アンタルダシャーやプラティアンタルダシャーが8室の支配星で、6室の支配星や凶星によって傷ついていれば、犯罪に巻き込まれたり、政治家であればスキャンダルによる失脚や暗殺を表す可能性が高いのである。

火星は8室の支配星で10室（父親）に在住して、父親のカラカである太陽と接合して、土星からアスペクトされている。太陽は激しく傷ついており、このことは、父親が軍事政権によって処刑されたことを表していると思われる。あるいは彼女のキャリア上で何か大変な暴力的な出来事や困難な出来事が起

ることが表されている。これは今回、暗殺として表れている。

10室が絡むため、このニュースは全世界に報道され、安全保障理事会は緊急会合を開き、非難声明を
 発表した。10室のことはよくも悪くも有名になってしまうのである。

事件のあった2007年12月27日が土星/火星期に含まれるように調節すると、ラグナは牡牛座10
 度前後になるのではないかと思われる。

出生時間を以下に仮定した場合	土星/火星期の開始時期	ラグナ
00:00:01	2009/6 ~	水瓶座
00:23:59	2002/5 ~	水瓶座
00:04:00	2007/12 ~	牡牛座 10 度付近

アンタルダシャー火星期を事件の起こった12月27日が含まれるように設定すると、牡牛座ラグナで
 ある。彼女は牡牛座ラグナである可能性が高いと言える。

牡牛座ラグナと仮定して再度、検証すると、7室支配のマラカの火星がマラカの2室に在住し、土星か
 らアスペクトされているのである。そして、27日のトランジットの図は以下である。

Transit: Dec 27, 2007
 Time: 12:00PM Zone: 5:00 DST: 0
 karachi, pakistan
 Longitude: 67E03 Latitude: 24N52 CurPer: Me/Ma/Ve
 Lahiri Ayanamsa: 23:58 365.25 Day Year

As 02:32	Pi	Vimshottari Dashes
Su 11:10	Sg	Me Dec-27-2007
Mo 23:57	Ch	Ke Sep-14-2015
MaR 07:41	Ge	Ve Sep-13-2022
Me 16:42	Sg	Su Sep-13-2042
Ju 07:58	Sg	Mo Sep-13-2048
Ve 01:52	Sc	Ma Sep-13-2058
SaR 14:32	Le	Ra Sep-13-2065
Ra 05:05	Aq	Ju Sep-14-2083
Ke 05:05	Le	Sa Sep-14-2099

As 2:32			MaR 7:41
Ra 5:05			Mo 23:57
			Ke 5:05 SaR 14:32
Ju 7:58 Su 11:10 Me 16:42	Ve 1:52		

		Ke	Ju
Mo			As Su Ve
			SaR
MaR	Ra		Me

死を誘発するマラカの火星に火星がトランジットしている。

そして、木星は8室に在住して出生の火星にアスペクトしているが、もともと出生図上で、ラグナから
 みて8、11室の支配星で凶星化しており、月、太陽、ダシャーロードの土星から見ても、機能的凶星
 で、7室の支配星としてマラカとして機能しており、チャートを保護する要素となっていないようであ
 る。

Benazir Bhutto ベナジル・ブット

そもそも、太陽はラグナから 8 室をトランジットしており、8 室に惑星集中して、2 室にアスペクトしている。8 室はもっとも不運なハウスであり、何か問題が生じるハウスである。太陽が 8 室をトランジットするタイミングは、何か突然のトラブルが起こるタイミングである。

このようにしてみると、ブット元首相が牡牛座ラグナの可能性が高いのである。

彼女はパキスタン人民党の総裁に選ばれ、何度か、首相の座に就いているが、汚職疑惑などで、国外逃亡することなどを繰り返しており、木星期の象意がよくないことを考えると、木星は 8、11 室の支配星として、傷ついていることが予想されるのである。

西暦	月日	出来事	ダシャー	トランジット
1969年	4月	ハーバード大学のラドクリフ・カレッジおよびオックスフォード大学レディー・マーガレット・ホール校で学ぶ	ラーフ/土星	土星：牡羊座 木星：乙女座 DT：山羊座
1971年		インドが東パキスタン（現バングラデシュ）へ軍隊を派遣し、父ズルフィカールが問題解決のため外務大臣として国連へ赴いた際、彼女はカレッジを一時的に離れ、ニューヨークで父の助手を務めた	ラーフ/水星 ラーフ/ケートゥ	土星：牡牛座 木星：蠍座 DT：牡牛座、蠍座、蟹座
1973年		政治学の学位を得てカレッジを卒業 [カレッジ在学中に彼女はファイ・ベータ・カップ（全米優等学生友愛会）の会員に選出される]	ラーフ/金星	土星：双子座 木星：山羊座 DT：なし
1973年秋		オックスフォードに進学。PPE(政治学・哲学・経済学)で修士号を得る。(オックスフォード在学中に、彼女はオックスフォード・ユニオンの議長に就任した初のアジア女性となる。彼女の大学での経歴は全体が論争に明けくれる物であった。)	ラーフ/金星	同上
1976年以降(?)		オックスフォード卒業後にパキスタンへ帰国したが、父親の監禁と処刑の過程で、彼女は自宅軟禁を受ける	ラーフ/太陽 ラーフ/月 ラーフ/火星	
1984年		イギリスへの渡航が許可され、彼女は亡命したまま、父の政党であったパキスタン人民党（PPP）の党首に就任した	木星/土星 木星/水星	土星：天秤座 木星：射手座 DT：牡羊座、射手座
1988年	12月	ブット氏、イスラム圏初の女性首相に就任	木星/金星	土星：射手座 木星：牡牛座 DT：乙女座
1990年	8月	ブット氏、首相を解任される	木星/太陽	土星：射手座 木星：蟹座

Benazir Bhutto ベナジル・ブット

				DT: なし
1993年	10月	総選挙でPPPが第一党、ブット氏が首相返り咲き	木星/ラーフ	土星: 水瓶座 木星: 天秤座 DT: 水瓶座、牡羊座
1996年	11月	ブット氏、首相を再び解任	土星/土星	土星: 魚座 木星: 射手座 DT: 射手座
1999年	5月	ブット氏、汚職罪で禁固5年の有罪判決	土星/水星	土星: 牡羊座 木星: 魚座 DT: なし
	10月	ムシャラフ陸軍参謀長が無血クーデターで政権掌握	土星/水星	土星: 牡羊座 木星: 牡羊座 DT: 牡羊座、天秤座
2002年	4月	国民投票でムシャラフ大統領の5年続投を承認	土星/金星	土星: 牡牛座 木星: 双子座 DT: 水瓶座
2003年	12月	大統領を狙った暗殺未遂が1カ月で2度発生	土星/金星	土星: 双子座 木星: 獅子座 DT: 獅子座、射手座
2007年	7月	イスラマバードのモスク(イスラム教礼拝所)に武装神学生が立てこもり、軍が武力鎮圧	土星/月	土星: 獅子座 木星: 蠍座 DT: 牡牛座
	9月	シャリフ元首相が亡命先から帰国、再び国外追放	土星/月	同上
	10月	大統領選でムシャラフ氏最多得票	土星/月	同上
		ブット氏約8年半ぶりに帰国	土星/月	同上
		ブット氏狙ったテロで約140人が死亡	土星/月 (土星/火星?)	同上
	11月	ムシャラフ大統領が全土に非常事態を宣言、憲法停止	土星/火星	土星: 獅子座 木星: 射手座 DT: 獅子座
		シャリフ元首相が帰国	土星/火星	土星: 獅子座 木星: 射手座 DT: 獅子座
	12月	ムシャラフ大統領が6週間ぶりに非常事態宣言解除	土星/火星	土星: 獅子座 木星: 射手座 DT: 獅子座

		ブット氏の集会で自爆テロ。ブット氏死亡	土星/火星	土星：獅子座 木星：射手座 D T：獅子座
(フレッシュ eye ウィキペディア、および12月28日8時1分配信 産経新聞、より引用抜粋、一部編集)				

彼女と父親の、親子に2代にわたる悲劇は、米国のケネディ家の悲劇や、インドにおけるガンジー王朝の悲劇を思わせるのである。特に父親が不運であるということは、その子どもにも確実に受け継がれているようである。ある程度、ジョーティッシュのチャートを読みこなしていくと、ある人から過去のエピソードを聞くだけで、関連する別の出来事に関する予測が可能になってしまうのである。

特にその人の父親に関する事実関係は、その人自身の運命を隠しようもなく明らかにするのである。

2007年12月29日現在、ブット元首相のラグナが牡牛座であるか未確定であり、検証継続中。

(資料1)

民主化旗手で根強い人気...ブット親子で悲劇の最期

27日に死亡したパキスタンのベナジル・ブット元首相(54)は、軍政に処刑された故ズルフィカル・アリ・ブット元首相の長女。政治の民主化を求めた父と娘は2代にわたって悲劇的最期を遂げた。

ブット氏は1980年代にパキスタン政界にデビュー。軍政を鋭く批判する民主化の旗手として根強い人気を誇った。今年10月に帰国した際も、汚職で訴追され事実上の亡命生活を余儀なくされていたにもかかわらず、支持者は熱狂して歓迎、衰えないカリスマぶりを示した。

しかし帰国直後のパレード中に約140人が死亡する自爆テロの標的となるなど、命の危険にさらされていた。

南部カラチで生まれ、米国と英国に留学。英オックスフォード大では、政治家の登竜門として知られる弁論部の部長に。在学中から父親の外遊に同行し、国際政治を肌で学んだ。

1977年にハク陸軍参謀長(後に大統領)によるクーデターで失脚した父は、2年後に処刑された。軍政打倒を目指して政治活動を開始し、86年に帰国。ハク大統領が飛行機事故で死亡した後に行われた88年の総選挙で、パキスタン人民党(PPP)を大勝に導き、首相の座に就いた。

民主化推進、経済再建などを掲げたが、2度にわたり当時の大統領に解任され、目立った実績は挙げられなかった。それどころか、実業家の夫ザルダリ氏は、公共事業などの口利きで私腹を肥やしたとされ、自身も汚職容疑にまみれた。

事実上の亡命生活に入ってから、クーデターで実権を握ったムシャラフ大統領の不当性を批判。しかし帰国にあたり、国内で勢力を強めるイスラム過激派の掃討を進める立場では協調できるとして、軍トップを兼任するムシャラフ氏と政権協議、一時は連携で大筋合意。帰国後のインタビューではこの提携について「軍独裁から民主化へ移行するためだ」と主張したが、自らへの訴追を逃れるためだったのでは、との疑惑もつきまとった。(共同)

(資料2)

ブット元首相、8年ぶりにパキスタンに帰国

2007年10月18日 23:17 発信地:カラチ/パキスタン

2007年10月18日、亡命先のアラブ首長国連邦からパキスタンのカラチ (Karachi) に到着し8年ぶりの帰国を果たしたベナジル・ブット (Benazir Bhutto) 元首相。(c)AFP/CARL DE SOUZA

【10月18日 AFP】(一部更新、写真追加) パキスタンのベナジル・ブット (Benazir Bhutto) 元首相 (54) が18日、事実上の亡命生活を送っていたアラブ首長国連邦から8年ぶりに帰国した。カラチ (Karachi) の空港に降り立ち感激のあまり涙を流したブット氏を、多数の支持者が路上に繰り出し歓迎した。警察発表によると、その数は数十万人を超えるという。

同氏の帰国をめぐるには、イスラム過激派から「帰国すれば暗殺する」との脅迫もでていた。

ブット元首相は、首相在任中の汚職疑惑で訴追され、1999年に渡英し、そのまま国外で事実上の亡命生活を送っていた。

しかし、大統領選を前に支持基盤を固めたいペルvez・ムシャラフ (Pervez Musharraf) 大統領は、ブット氏が総裁を務めるパキスタン人民党 (Pakistan People's Party, PPP) による選挙協力を条件に、ブット元首相への訴追取り下げを提案し、両者が合意。今回の帰国に至った。

ブット氏は、1986年にも亡命先から帰国したことがあるが、当時と比較した感想を記者から問われ、「当時より私も年齢を重ね、20年間で多くを学んだ」と応える一方で、「より良いパキスタンを築くための独裁政治や過激派との戦いはまだ続いている」と強い口調で語った。(c)

(資料3)

散乱する靴、服、肉片 記者の目の前で惨事

2007.12.28 00:57

27日、パキスタンでブット元首相を狙った自爆テロが起きた後、担ぎ出されるけが人 (AP) 巨大な爆発音の後、真っ黒な煙が上がった。路上に散乱する靴、服の切れ端、肉片。パキスタンの首都イスラマバード近郊ラウルピンディで27日起きた自爆テロ。演説を終え集会会場を出ようとしたブット元首相が死亡した惨事は、取材をしていた記者の目の前で突然起きた。

集会の会場となった公園には、ブット氏が総裁を務めるパキスタン人民党 (PPP) の支持者数万人が集まっていた。

ブット氏の演説が終わってから約15分後、会場を引き上げようとしたその時、「ドーン」という耳をつんざくような音と地鳴りが響いた。

後ろを振り向くと、大きな黒い煙が。音のしたほうに戻ると、血まみれの肉片が散らばる惨状が目前にあった。車のフロントガラスは大きく壊れ、爆発の大きさを物語る。

現場に居合わせたムハマド・ナジールさん（56）は「男が近づいてきて、それで...」。赤、黒、緑のPPPの党旗を握ったまま、泣き崩れた。「なぜこんなことに」。支持者らが泣き叫ぶ中、救急車のサイレンがけたたましく響いた。（共同）

（資料4）

ブット元パキスタン首相の帰国狙い自爆テロ、140人近く死亡
<パキスタン>ブット元首相、8年ぶりに帰国（毎日新聞）

【ニューデリー栗田慎一】収賄罪による訴追から逃れるため国外逃亡していたパキスタンの最大野党「パキスタン人民党」総裁のベナジール・ブット元首相（54）が18日、故郷の南部カラチに空路で到着し、8年ぶりに帰国した。06年に国際刑事警察機構を通じて国際手配されたが、ムシャラフ大統領の政治危機を背景に「民主化」を求める米国の後押しを受ける形で政府と協力協議を開始し、刑事訴追の恩赦を認めさせることに成功した。

ただ、恩赦を与える政府の「国民和解協定」の合憲性について最高裁が審理中で、違憲と判断されれば逮捕される可能性がある。合憲の場合、政府は恩赦を与え、来年1月実施予定の総選挙に向け、権力分担を視野に協議を始める見通し。

人民党幹部は毎日新聞に対し「ブッシュ米政権は（ムシャラフ氏よりも）ブット氏が過激派対策に力を入れると見ており、対テロ戦でブット氏との共闘を望んでいる」と述べた。一方、与党幹部は「人民党との協力協議は選択肢の一つだ」とけん制している。

警察当局によると、混乱防止のためカラチ空港周辺には警官約2万人が動員され、同空港発着予定の国内線全19便が欠航となった。周辺には人民党の支持者ら約10万人が集まったが、大きな混乱はなかったという。

空港から出てきたブット氏は支持者らを前に「貧困で苦しむ人々を助けるため戻ってきた」と訴えた。空港職員によると、同氏は飛行機から降りた直後、感激のあまり涙を流したという。

ブット氏は空港で防弾ガラスの特別車に乗り、市内をパレードする予定。1947年の分離独立でパキスタン建国に尽力したジンナー初代総督の霊廟（れいびょう）を訪問した後、支持者らを前に演説する。

南部に支持基盤...ブット元首相

ブット元首相は、南部シンド州カラチを拠点にパキスタンの独立運動に尽力した名家の生まれだ。同州内にはパキスタンの政治の中心である北部パンジャブ州への対抗意識が強く、いままブット氏への支持は根強い。

Benazir Bhutto ベナジル・ブット

父親は79年にハク元大統領によって絞首刑にされた初代首相アリ・ブット氏。英オックスフォード大で政治学などを学び帰国。父親が処刑された後は英国に身を寄せたが、亡命中の84年に人民党総裁に就任した。88年、ハク元大統領が航空機事故で死亡した直後の総選挙で、人民党は過半数を獲得。同年12月に同国初の女性かつ最年少の首相に就任し、約100万人の支持者らに迎えられ英国から凱旋（がいせん）帰国した。

しかし、90年に収賄罪で告発され、当時の大統領に解任された。93年に首相に返り咲いたが、96年に別の汚職で再び解任され、99年4月に英国へ逃れた。夫は収賄罪で04年11月までパキスタン国内で服役した。

政治的な成果をほとんど残せず、身内の登用や蓄財疑惑で国民の反発を買ってきたが、政敵ムシャラフ大統領の今春以降の政治危機を背景に「パキスタンの民主化」を訴え、再び返り咲きを果たそうとしている。

（資料5）

元首相狙い自爆テロ、138人死亡＝帰国後集會に移動中 - パキスタン（時事通信）

【カラチ（パキスタン）19日時事】パキスタン南部のカラチで19日午前零時（日本時間同4時）ごろ、野党指導者ブット元首相の乗った車の近くで2回の爆発があり、地元紙（電子版）報道では少なくとも138人が死亡、負傷者は約550人に上った。元首相は無事で、現場から避難した。警察によれば、元首相を狙った自爆テロとみられる。

犯行声明は出ていないが、当局はイスラム過激派のテロを警戒し、元首相の帰国に合わせて治安要員約2万人を動員して警備に当たっていた。

テレビ映像によれば、爆発は元首相の乗ったトラックを約10メートル先で先導していた警察車両のそばで起きた。2回目の爆発は強力で、車両は炎に包まれた。ムシャラフ大統領は国営通信を通じ、テロを「民主主義に対する陰謀だ」と非難する声明を発表した。

元首相はこの日、国内での政治活動を再開するため、海外亡命先から8年半ぶりに帰国。カラチの国際空港に到着後、政府が提供した防弾仕様トラックの屋根に側近らと共に立ち、沿道の人々の声援に応えるなどしながら市街地の集會予定地に低速で移動中だった。爆発当時、元首相は車内にいた。

（資料6）

<パキスタン>史上最悪級のテロ ブット氏、間一髪（毎日新聞）

【ニューデリー 栗田慎一】パキスタン南部カラチで深夜に起きたブット元首相を狙った自爆テロ事件は、8年半ぶりのブット氏の帰国を歓迎する野党支持者で埋め尽くされた主要道路で起きた。死者は130人に達し、同国でのテロとしては過去最悪級となった。地元警察によると、ブット氏がトラックの荷台から防弾ガラスが装備された同じトラックの車内に移動した数分後に爆発が発生。荷台にいた支持者らは負傷しており、ブット氏は間一髪で難を逃れた。

爆発後、国営テレビは「民主主義に対する陰謀だ」と事件を非難するムシャラフ大統領の声明を放送した。AFP通信によると、ブット氏は事件を受けて19日予定していた大集会での演説を中止した。

警察の調べでは、爆発があったのは片側3車線の幹線道路シャフラヒ・ファイサル線。爆発はブット氏を乗せたトラックの直前で発生し、周囲にいた人々は何が起きたのかも分からないまま絶命した。路上は血で真っ赤に染まり、生き残った人々はパニックになり転倒し、下敷きとなり、現場に悲鳴が響き渡った。

目撃者によると、爆発した2台の乗用車は当初、「パトカーが停車している」と思われていたという。2台は車線をふさぐ形で止まっており、ブット氏を乗せたトラックの運転手が、進路を開けるように何度かクラクションを鳴らした。直後、1台がドンと爆発し、直後に2台目が爆発した。

犯行声明などは出しておらず、事件の背後関係は不明。しかしブット氏の夫ザルダリ氏は民放テレビに対し、「パキスタンの情報機関が実行した」と非難し、「我々是对抗措置を求めると語った。証拠には言及しなかった。この発言を受けるとどのように、支持者らが警察署などを襲撃し、小競り合いとなった。

ブット氏は18日、ムシャラフ政権との権力分担協議などのため、8年半の海外亡命生活にピリオドを打ち帰国したばかりだった。政府はブット氏らに恩赦を与える「国民和解協定」の施行を約束したが、最高裁が協定の合憲性を審議し始めたことから、ブット氏に「最高裁判決まで帰国を延期すべきだ」と求めている。

また政府は「過激派によるテロの可能性も否定できない」と警告。ブット氏も「身の安全」に懸念を示したが17日、「だれも私の帰国を止められない」と帰国の強行を発表した。政府は「最大限の警護」を保証し、18日のカラチ空港発着の国内全便を欠航にし、パレードでは警察官にトラックの周囲を警護させていた。

ブット元首相、イスラム過激派の標的に... 強硬な取り締まりを支持（産経新聞）

パキスタン南部のカラチで発生した自爆テロは、8年半ぶりに帰国したばかりのブット元首相の車列が標的になった。犯行声明などは出ていないものの、ブット氏は、イスラム過激派への強硬な取り締まりを支持していたため、かねて過激派から命を狙われていた。

米欧に留学し、1999年に汚職罪で有罪判決を受けて以降、英国で事実上の亡命生活を送ってきたブット氏は、米欧メディアを通じ、軍事クーデターで政権についたムシャラフ大統領がイスラム過激派を増長させていると非難してきた。

今年7月に過激派がモスク（イスラム教礼拝所）に立てこもった「赤いモスク事件」では、特殊部隊がモスクに突入する以前から、大統領に強硬策をとるよう強く求めた。さらに、帰国前には、「過激派を孤立させ、よりよいパキスタンにしたい」と訴えていた。

このため、イスラム過激派によって、ブット氏はムシャラフ大統領に次いで暗殺対象者リストの2番目に挙げられていたとされる。国際テロ組織アルカーイダが拠点を再構築しているとされるアフガン国境に近い部族地域に住むイスラム原理主義勢力タリバンのハジ・オマル司令官は、ロイター通信に、「ブット氏は、米国との間で合意ができています。ムシャ

ラフ大統領同様、ブット氏にも攻撃を加える」と予告していた。(岩田智雄)

(資料7)

<パキスタン> 「穏健派」結集の米構想、混迷深める危うさも (毎日新聞)

【ワシントン笠原敏彦】対テロ戦争でパキスタンの協力を必要とする米国には、ムシャラフ大統領とブット元首相を「穏健派」として結集させ、パキスタンの安定を図りたいとの思惑がある。だが、元首相暗殺を狙った18日の自爆テロで、米構想が逆にパキスタン情勢を混迷させ、対テロ戦争の遂行をより困難にしかねない危うさを秘めていることが浮き彫りになった。

米国が望んでいる筋書きは、来年1月までに実施されるパキスタン総選挙を経てブット新首相が誕生し、「ムシャラフ大統領 - ブット首相」の2頭体制が構築されることだ。ブット氏の帰国に結実した両陣営の交渉を後押ししたのは米国だった。ホワイトハウスは声明で「過激派はパキスタンの民主的なプロセスによる選挙を阻止できないだろう」と強調した。

米国にとってパキスタンは、国際テロ組織アルカイダをにらんだ対テロ戦争で不可欠のパートナーだ。その一方、イスラム諸国で唯一の核保有国であることから、慎重な危機管理を必要とする国でもある。米紙ウォールストリート・ジャーナルは「米国が最も避けたいのは、イスラム過激派の脅威を受けている核保有国が一層、不安定になることだ」と指摘する。

自爆テロによって、ブット元首相の帰国が、民主化進展と情勢混迷のいずれをも招き得る「両刃の剣」であることが分かった。米国はパキスタンへの対応でますます難しいかじ取りを迫られることになった。

(資料8)

<パキスタン> 最悪の自爆テロ 実行犯は現時点では謎に (毎日新聞)

【ニューデリー栗田慎一】地面に散らばる遺体。血や肉が焼け焦げるに。18日パキスタン南部の都市カラチで起きたブット元首相を狙ったとみられる自爆テロ事件の現場は陰惨を極めた。ブット氏、ムシャラフ政権双方は事前に事件を予告するような発言を繰り返し、厳重な警備体制が敷かれるなか、130人以上が死亡する同国史上最悪の自爆テロは起きた。

ブット氏は帰国前、国際テロ組織アルカイダなどによる自身へのテロへの懸念を強調。17日の記者会見では「だれも私の帰国を止められない」と語り、危険を顧みず帰国する姿勢を示した。

ブット氏が帰国を強行した背景には、一時は反ムシャラフの旗手として国民の期待を集めていたブット氏の人気「最近になって落ち始めた」(地元記者) ことがある。6日の大統領選では、ムシャラフ政権との協議を優先するために人民党議員に自党候補に投票させず棄権させた。権力への復帰を目指して大統領とも協力するなりふり構わぬ姿勢に国民は不

満を強めつつある。帰国の背景には、人心を取り戻したい思惑もあった。

ブット氏が、政敵ムシャラフ大統領と協力できる接点は「対テロ戦争」しかない。7月のモスク(イスラム礼拝所)「ラル・マスジッド」の武力鎮圧に全面支持を表明したのはそのため、直後に大統領とアラブ首長国連邦で初めて直接会談を実現させた。その半面、イスラム過激派が反感を強め、テロへの懸念につながった。

一方、アジズ首相をはじめムシャラフ政権幹部は、「帰国は見送った方がいい」と繰り返し、「過激派による自爆テロは防ぐのが難しい」と今回の事件を予測するような発言もしていた。

ムシャラフ大統領は6日の選挙で再選を果たしたものの、最高裁が選挙の有効性について審理中だ。政治危機をひとまず脱したとはいえ、民政移行までにはなお曲折が予想される。「ブット氏の早期帰国は大統領への圧力を増やし、政治的安定を損なう」との懸念が与党内にあり、テロの脅威を理由にブット氏の帰国を引き延ばしたい意向もあったとみられる。

事件はブット氏に反発するイスラム過激派の犯行との見方がある一方、長くイスラム過激派弾圧を続けてきたムシャラフ大統領を差し置いて、現時点で過激派がブット氏を狙う理由があるか疑問視する声もある。誰が自爆を実行したのか、現時点では謎に包まれている。

(資料9)

ブット元首相暗殺 数発発砲し自爆 車に乗り込む直前狙う

12月28日8時1分配信 産経新聞

爆発で投げ出された血まみれの遺体と逃げまどう支持者、燃えさかる炎…。ブット元首相が暗殺された集会所は惨状と混乱を極め、救急車のサイレンと怒号がけたたましく鳴り響いた。

ロイター通信は現場の警察官の話として、「自爆テロ犯はブット元首相の車に向かって拳銃を発射し、ブット元首相がしゃがんでのけぞると自爆した」と犯行の状況を伝えた。

自爆テロ犯は、拳銃と爆弾を持ってブット元首相が乗り込もうとした車両に近づき、数発発砲した上で自爆したという。

A P通信によると、ブット元首相の車両の間近にいたパキスタン人民党(P P P)幹部は「彼女の車両が近づくとやせた若者が車両に向かって後方から飛びつき、発砲した」と証言。元首相の警護担当者は「自爆テロ犯はブット元首相の首と胸に拳銃2発を発射し、直後に自爆した」と犯行の様子を語った。

また、現場にいたブット元首相の支持者も「彼女が車に乗り込むのをこの目でみた。その直後に爆発音を聞いた」と話した。

ただ、現場からの情報は錯綜(さくそう)している。フランス通信(A F P)はパキスタン内務省スポークスマンの話として、ブット元首相は自爆テロ犯が胸元にしのばせた散弾で殺害されたと伝えた。

一方、ブット元首相が搬送された病院に駆けつけた支持者らは涙を流し、「ムシャラフは犬だ」と叫びながら、怒りの矛先をムシャラフ大統領に向け、AP通信によると、警察当局は憤る支持者に向けて催涙弾を発射した。(バンコク支局)

(資料10)

暴徒化、混乱広がるパキスタン ブット元首相暗殺

2007年12月29日17時45分

ブット元首相の暗殺事件があった首都イスラマバード郊外ラウルピンディに28日、入った。町のあちこちで古タイヤや廃材とともに大統領派与党のポスターを燃やし、元首相の暗殺に抗議する光景が見られた。元首相の暗殺現場では、道路に爆弾が破裂した黒い焦げ跡が残り、巻き添えで犠牲となった支持者たちの靴が並べられていた。

町中心部の広場近くの通りでは、テロの犠牲となった元首相の支持者の棺(ひつぎ)を人々が担ぎ、「神は偉大なり」「ベナジル(ブット)万歳」などと叫びながら行進していた。商店主のゼディさん(46)は「ブット氏は国民を一つにまとめられる偉大な指導者だった。この国を不安定にしようとする米国が暗殺を仕組んだのだ」と憤った。

元首相が総裁を務めていたパキスタン人民党の職員、リアカットさん(56)は「とても悲しい。私が代わりに撃たれて死ねば良かった。暗殺は政府の仕業だ」と、泣きながら訴えた。

町は服喪のために休日で、商店のほとんどはシャッターを下ろしている。平日は渋滞する目抜き通りも、走る車はほとんどない。商店主のイブラルさん(41)は「店を開けると暴動の巻き添えになるかもしれない。不安定な政治のために人々の暮らしが犠牲になっている。とにかく平和で政治が安定してほしい」とつぶやいた。

リーダー失い、統制不能に

「私は危険を覚悟で帰国した。パキスタンは危機に立たされ、人々は恐怖におののいている」。ベナジル・ブット元首相(54)は27日、首都イスラマバード近郊のラウルピンディで遊説した。その直後、テロに倒れた。

ブット氏には、いかなる危険を冒しても街頭に立つ必要があった。

実父の故ズルフィカル・アリ・ブット元首相は67年にパキスタン人民党(PPP)を結成し、圧倒的な支持を得た。娘のブット氏もイスラム圏初の女性首相になったが、汚職を問われて自ら祖国を去った。今年10月、8年ぶりに帰国したのは、ムシャラフ大統領が汚職訴追を取り消す大統領令を出したためだ。

ブット氏は、総選挙後の政権運営で協力するため、ムシャラフ氏と水面下で交渉を続けてきた。背後には米国の後押しがあった。しかし、父の代から続く熱烈なPPP支持者は、軍事クーデターで政権を手中に入れたムシャラフ氏との政権協議には批判的だった。

Benazir Bhutto ベナジル・ブット

1月8日予定の総選挙が迫るなか、「骨肉の争い」も始まった。96年に暗殺されたブット氏の弟、ムルタザ氏の妻で地域政党・人民党シャヒード派代表のギンワ氏が立候補を表明。「ブット氏は米国の言いなりだ。人民党の精神を忘れている」と痛烈に批判した。

ムシャラフ氏との協議の行方も、帰国後間もなく不透明になった。

帰国直後の自爆テロで、支持者ら約140人が死亡。情報筋によると、実行犯は国際テロ組織アルカイダとつながりのあるイスラム過激派だった。ブット氏は帰国前、アルカイダ幹部が潜伏しているとされるパキスタン部族地域で米軍の単独作戦を認める発言をするなど、過激派根絶に意欲的だった。

殺害を免れたブット氏は、暗殺をたくらむ人物を列挙した手紙をムシャラフ氏へ送っていたと明かした。PPP関係者によると、80年代に過激派を育成し、アフガニスタンでの対ソ聖戦(ジハード)に赴かせた元軍情報機関トップらの名前が書かれてあった。国軍出身のムシャラフ氏は、気分を害したという。

ムシャラフ氏は11月初めに非常事態を宣言。弁護士ら5千人近くを拘束した政権に抗議したブット氏は自宅軟禁になった。「大統領は辞任すべきだ」。両者が完全に決裂した瞬間だった。

「PPPの重要な意思決定はブット氏に委ねられ、まるで『個人党』だった」(政界筋)と指摘する声もある。リーダーを失ったPPP支持者は各地で暴徒化している。党指導部も統制が取れない。混乱に乗じて商店を略奪する者も出始めた。

いったんは総選挙への参加を決めた第3野党パキスタン・イスラム教徒連盟シャリフ派(PMLN)の指導者で、ムシャラフ氏の政敵シャリフ元首相は「ボイコットする」と発表。選挙の正当性が問われかねない事態に陥っている。

ブット氏の暗殺犯についてムシャラフ氏は27日夜、国営テレビで「我々が戦っているテロリストの仕業だ」とイスラム過激派の犯行を示唆した。しかし、民衆レベルでは過激派に同情的な軍の一部が関与したとの見方がくすぶる。

混沌(こんとん)とするパキスタンで、民政復帰プロセスの行く末はまったく見えなくなった。
